ボタニカルガーデンズ
～今坂庸二朗写真展について

久保晴盛・富澤まり

経緯と背景

今坂庸二朗氏は、広島市出身の写真家で、ニューヨークを拠点に活動しているアーティストである。2022年より、「世界中の植物園・温室を巡り、写真に収める」ことをテーマに、古典的技法を用いて写真作品を制作するプロジェクトを進めている。

2024年、今坂氏より「自分が生まれ育った広島の植物園で作品を制作して展示し、広島に貢献したい」との相談が当協会に寄せられ、同年11月に来園のうえ協議を行った。その結果、2025年夏に撮影を実施し、11月に展示会を開催することとなった。

以下に、展示会等の実施状況について記す。

写真撮影

撮影は2025年7月7日（月）～22日（火）に実施した。今坂氏と助手のジェレミー氏の2名が来園し、大判フィルムカメラ［8x10］を用いて撮影を行った。（写真1）。

今坂氏の作品は、19世紀の写真技法である湿版写真（コロジオンプロセス）を用いた特色あるものであり、撮影の都度、原版作成と現像を手早く行う必要がある。今回は温室を中心に撮影を行ったため、撮影場所に近い大温室ロビーの一部を現像室として提供した。また、撮影の幅を広げるため、高い位置から植物を見渡せる大温室の管理用通路（キャットウォークなど）についても、職員立会いのもと利用を許可した。

写真1　撮影風景（熱帯スイレン温室）

会場設営・展示会

展示会は2025年11月8日（土）～12月14日（日）の32日間開催した（写真2、3）。写真は大判プリンター（Canon TM-200、印刷幅60 cm）で計25枚分印刷した。内訳はSサイズ（約60 × 85 cm）14枚、Mサイズ（約120 × 150 cm）8枚、Lサイズ（約190 × 240 cm）3枚である（図）。ガラス原版10枚も展示した（写真3）。

なお、設営直前の11月5日（水）～7日（金）には今坂氏の指示のもと、企画広報係の職員4人が協力し、最終調整・印刷・会場設営を行った。

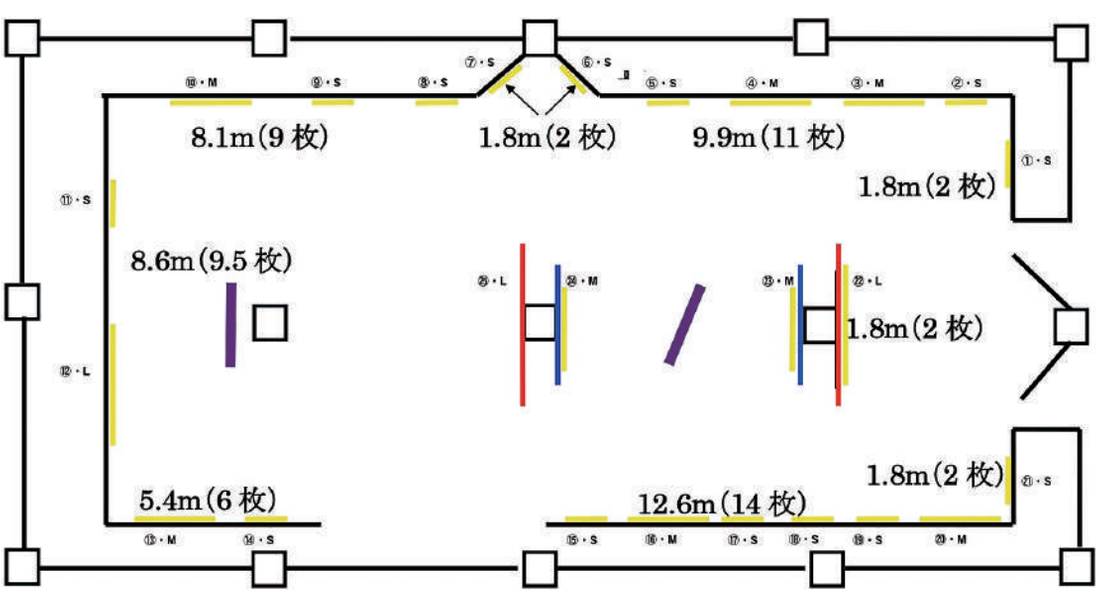

図　会場レイアウト

写真２　展示会場（大温室ヒスイカズラ）

写真３　試写に用いたガラス原版の展示

関連イベント

11 月 8 日（土）午前 11 時～正午にかけて、ギャラリートークを開催した（写真 4）。参加者は 40 名で、今坂氏がプロジェクト概要や観賞ポイント等を解説した。また、取材に訪れた NHK 広島放送局の松田萌香キャスターに聞き役として協力いただいた。

写真４　ギャラリートーク（11 月８日）

取材・報道記録

今回の展示会では、写真撮影時を含め 4 社 8 件の報道があった（表）。ニューヨーク在住のアーティストによる広島初開催の展示であることから各社の取材意欲は高く、NHK 広島放送局が 13 分の特集（12/11）として取り上げ、中国新聞社のインタビュー記事（7/16、12/3）も文化面に大きく掲載されるなど、最近にない記録的な取材状況であった。

表 本展示会に関連した取材一覧

放映･掲載日	媒 体
7月16日（水）	中国新聞 朝刊（文化面）
8月2日（土）	RCC ラジオ（週末ナチュラリスト）
11月1日（土）	RCC ラジオ（週末ナチュラリスト） ＊ニューヨークより生出演
11月3日（月）	広島 FM（GOODJOB） ＊ニューヨークより生出演
11月21日（金）	NHK 広島放送局（ひるまえ直送便）
11月21日（金）	NHK 広島放送局 （お好みワイドひろしま）
12月3日（水）	中国新聞 朝刊（文化面）
12月11日（木）	NHK 広島放送局 （お好みワイドひろしま）

まとめ

海外を拠点とするアーティストの作品企画および展示受入は当園として初の試み * であり、アメリカ在住の今坂氏との時差を踏まえた非対面での調整などの苦労があった。結果として、これまでの植物公園の展示にはなかった新しい視点でのアート展示を実施でき、当園の魅力発信に繋げることができた。

期間中の入園者数は 14,694 人で、2024 年とほぼ同数（14759 人：2024 年 11 月 9 日～ 12 月 15 日）であった。直接的な入園者増加には結びつかなかったものの、広範なメディア露出により当園の認知度向上に寄与したものと考えられる。

今坂氏は今後もイタリアなど世界各地の植物園の撮影を継続する予定であり、当園としても、第 2 回の展示開催を期待したい。

* アート展
「Hibakujumoku - the trees in a community-Kikyo 帰郷」も同時期に開催した（18 ページ参照）